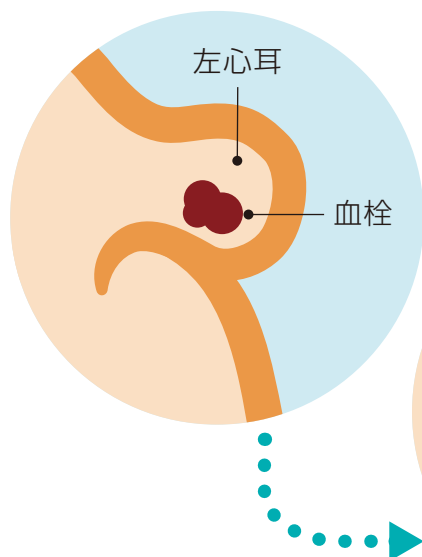




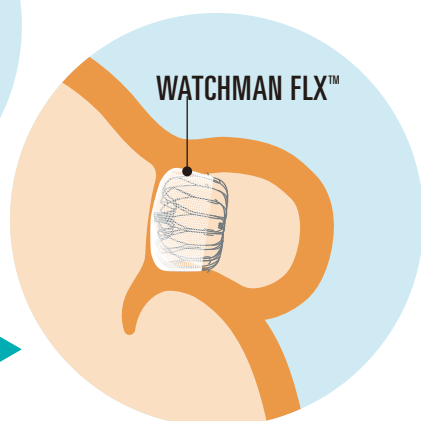
WATCHMAN FLX™ 左心耳閉鎖術とは



抗凝固薬(ワルファリンやDOAC)は心房細動患者さんの脳卒中リスク低減に有効な治療法です。しかし、出血のリスクが高いなどの理由で**抗凝固薬を続けることが困難な場合**もあります。**左心耳閉鎖術**は、上記のような患者さんの**脳卒中リスク低減を目的とした代替療法**です。



▶ 脳卒中の中でも、心臓由来の脳卒中は特に重症化しやすく、その原因となる血栓の90%以上が左心耳(さしんじ)で形成されます*。



▶ WATCHMAN FLX™は左心耳を永久的に閉鎖し、血栓の形成を抑えることで、脳卒中のリスクを低減します。

WATCHMAN FLX™のメリット

① 脳卒中リスクの低減

心臓内で血栓を形成することが多い左心耳を、WATCHMAN FLX™で閉鎖し脳卒中リスクを低減します。

② 抗凝固薬の服用中止が可能

WATCHMAN FLX™の臨床試験結果では、96%の患者さんが約45日で服用を中止しています。

③ 体への負担を低減

開胸せずに脚の血管からカテーテル(細い管)を挿入する為、一般的に手術翌日から歩行が可能です。



* Blackshear JL., Odell JA. Annals of Thoracic Surg. 1996; 61: 755-759

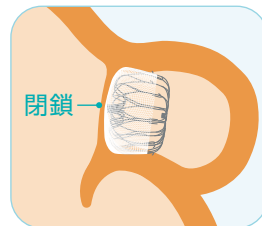
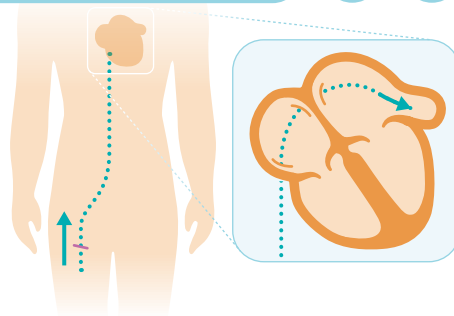
WATCHMAN FLX™

経皮的左心耳閉鎖デバイス

医師による説明用

WATCHMAN FLX™ による治療の流れ

- 1 WATCHMAN FLX™を留置するには、脚の血管に小さい切れ込みを入れてカテーテル(細い管)を挿入します。
- 2 血管の中にカテーテルを通してWATCHMAN FLX™を左心耳まで運び、適切な位置で留置します。
- 3 手術は全身麻酔下で行われ、約1時間を要します。
WATCHMAN FLX™を留置した患者さんは、一般的に手術の翌日から歩行が可能です。
- 4 手術後、左心耳の適切な閉鎖が確認されるまで抗凝固薬を服用します。
通常は手術後から約45日間服用します。
- 5 時間の経過とともに、留置されたWATCHMAN FLX™の表面が内皮化されることで左心耳が閉鎖されます。
※完全に閉鎖されるまでの期間や内皮化の程度には個人差があります。



Q&A ※患者さんの状態に応じて、下記記載とは異なる場合もございます。最終的な判断は担当の医師が行います。

Q どのような患者さんが対象ですか？

A 抗凝固薬を服用している患者さんのうち、出血リスクが高いなどの理由で服薬が困難であると医師により判断された患者さんが対象です。

Q 抗凝固薬はいつ中止できますか？

A 手術後、原則45日間継続し、経食道心エコー検査で問題がなければ中止可能です。

Q どのような検査が必要ですか？

A 手術前に、心臓超音波検査、経食道心エコー検査、造影CT検査、その他(採血や心電図など)を行います。

医療機関使用欄

ここで提供されるすべての情報は皆様への情報提供を意図しており、医学的なアドバイスや診断に使用されるべきものではありません。もし健康状態に関して何らかの不安があれば、医師にご相談ください。

**Boston
Scientific**

Advancing science for life™

販売名:WATCHMAN FLX 左心耳閉鎖システム
医療機器承認番号:30200BZX00383000

製品の詳細に関しては添付文書等でご確認いただくか、弊社営業担当へご確認ください。
© 2023 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.
All trademarks are the property of their respective owners.

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp

SH-1668801-AA